

青果用パレイショのウイルス病様株から検出されるウイルス						
[要約]長崎県における青果用パレイショのウイルス病様症状株からは、 <u>P V Y (ジャガ イEウイルス)</u> 、 <u>P V S (ジャガ イSウイルス)</u> 、 <u>P L R V (ジャガ イ葉巻ウイルス)</u> の3種が主に検出される。						
総合農林試験場・環境部・病害虫科	専門	作物病害	対象	いも類	分類	指導
資料名：平成12年度普通作・野菜等病害虫試験成績書						

[背景・ねらい]

最近、長崎県のパレイショ栽培において、茎葉のモザイク症状およびえそ症状の発生が問題となっている。しかし、その病原ウイルスの種類、系統および性状については不明な点が多く、本病の早期発見や防除対策が困難になっている。

平成9年の成果情報では、島原半島における青果用パレイショのウイルス病様症状株から検出されるウイルスは、P V YおよびP V YとP V Sの混合感染の頻度が高いことが明らかとなっている。そこで、県下全域のパレイショのウイルス病様症状株に關与する病原ウイルスを明らかにするため、主要な青果栽培地から、ウイルス病様症状株を採取し、血清学的手法の1つであるE L I S A法によって、5種のウイルス(P V Y、P V X、P V M、P V S、P L R V)の発生実態を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 県内の青果用パレイショのウイルス病様症状株からは、P V Y、P V S、P V X、P L R Vの4種のウイルスが検出され、春作・秋作を通じての主体は、P V Y、P V S、P L R Vの3種であり、P V Mは検出されない(表、図1)。
2. 2種以上のウイルスの混合感染株では、P V S + P L R V、P V Y + P V SおよびP V Y + P V S + P L R Vの組み合わせが、作期(春作、秋作)を問わず最も多く検出される(図2)。

[成果の活用面・留意点]

主に検出される3種のウイルス(P V Y、P V S、P L R V)は、アブラムシ伝搬あるいは種イモ伝染をするので、これらに対する防除対策が重要である。

[具体的データ]

表 ウイルス病様症状株の採取概況

採取時期	採取地	サンプル数	ウイルス検出割合
平成11年春作	愛野町、加津佐町、吾妻町、小浜町、松浦市、西海町、西彼町、千々石町、南串山町、南有馬町、飯盛町、布津町、平戸市、有家町、有明町	55株	72.7%
11年秋作	愛野町、加津佐町、小浜町、松浦市、森山町、西海町、千々石町、南有馬町、飯盛町、平戸市	54株	59.2%
12年春作	愛野町、加津佐町、吾妻町、国見町、瑞穂町、千々石町、南串山町、飯盛町、有明町	37株	56.8%

ニシユタカ、デジマ、メークインの3品種を採取

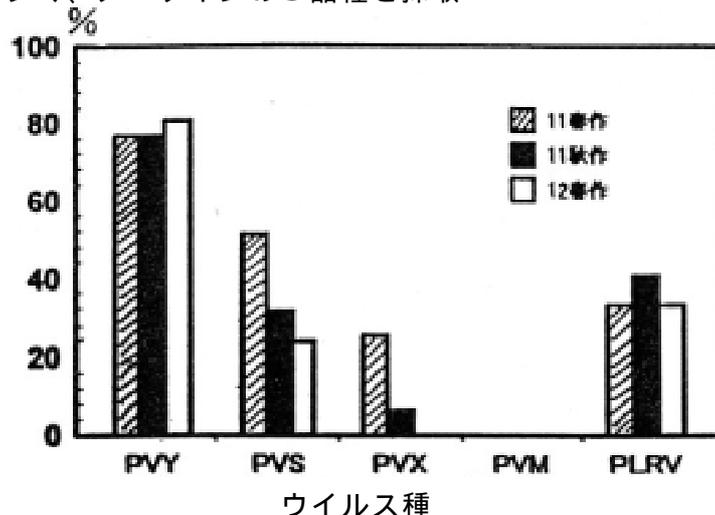


図1 全検出株中における各ウイルスの割合

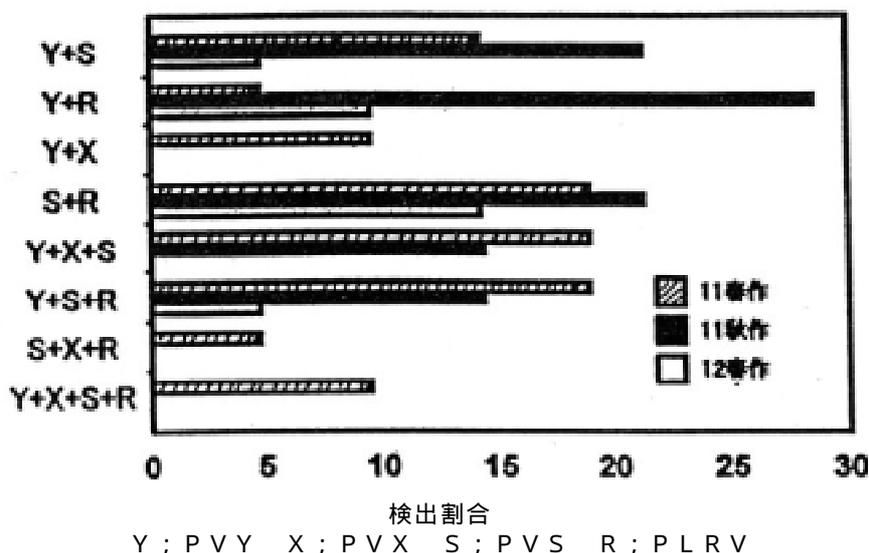


図2 混合感染株において検出されるウイルスの割合
(注) 混合感染株率：11春作 57.5%、11秋作 66.7% 12春作 33.3%

[その他]

研究課題名：ジャガイモウイルス病の発生生態解明と防除技術確立

予算区分：県単

研究期間：平成12年度（平成11～15年）

研究担当者：内川敬介、織田 拓